

# 低コストで効率的な施業の推進に向けて

～搬出間伐・列状間伐の普及～

十勝西部森林管理署

## 【現状・課題・目的】

十勝管内の人工林資源は充実・利用期を迎え、伐採量全体の9割を人工林が占めている。

このような中、民有林の間伐方法は、効率的で安全性の高い列状間伐の取組は低位で、資源の有効利用につながらない切捨間伐が多い。このため、列状間伐と搬出間伐について、森林所有者等の理解を深めてもらい、実践につなげてもらう取組が必要。



【十勝管内 民有林除間伐実績】  
～平成29年度実績～（十勝総合振興局調べ）

## 【これまでの取り組みや成果】

民有林（道有林を除く）での列状間伐普及に向け、道有林と国有林の列状間伐実行箇所での現地検討会等を実施。昨年度は搬出間伐と列状間伐を推奨し実践する指導林家から、作業現場でメリットを具体的に説明し、市町村林務担当者、森林組合職員、森林所有者等は高い関心を示し理解を深めてもらうことができた。

## 【平成30年度の結果・成果】

### 搬出間伐・列状間伐の普及のために

#### 【現地検討会・研修会への参加】

地域の民有林関係者を国有林に招き、国有林で実践している高性能林業機械を活用した「列状間伐と路網作設作業を組み合わせた作業システム」の実施状況及び収益性などをテーマとした現地検討会を開催しました。検討会では作業についての安全性・効率性への理解を深めることができました。

十勝総合振興局の研修会では「民有林（道有林を除く）でも初回間伐には列状間伐が取り入れられてきているが、2回目間伐での実施にはまだ理解が広まっていない」との状況が聞かれました。2回目間伐での列状間伐実施においても、低コストで効率的な施業が期待ができ、山主への収益還元を増やすことにつながることから、今後、普及していく必要があると考えます。※下表参照

間伐～主伐の収支シミュレーションの例（北海道）（単位：千円/ha）（円/m<sup>3</sup>）

	支出					森林 保険	収入				収益	
	事業費(間伐費見込)						販売収入			補助金		合計
	間伐		皆伐				間伐	主伐	合計			
30年生	40年生	小計	50年生	計	間伐	主伐	補助金	合計				
定性間伐 ①	280 (11,687)	435 (9,257)	715 (4,321)	1,430 (4,321)	2,145	11	2,156	417	2,614	416	3,447	1,291
列状間伐 ②	285 (5,941)	429 (5,111)	714 (4,128)	1,053 (4,128)	1,767	11	1,778	903	1,936	561	3,400	1,622
差 ②-①	5 (-5,746)	-6 (-4,146)	-1 (-193)	-377 (-193)	-387	0	-378	486	-678	145	-47	331

【資料】「低コスト施業の手引き」（北海道水産林務部）

#### 【市町村を単位とした状況把握と支援】

国有林野の所在する8市町村の首長・林務担当者と面談し、市町村毎の課題・問題点を把握した上で、低コストの施業方法である「立木販売と造林請負の一括事業」の見学会の実施や保安林関連事務の支援などに取り組み低コストの森林づくりへの理解が得られた。

#### 【今後の目標】

森林所有者への収益還元のため低コスト施業と列状間伐の拡大・普及を図る。

- 森林施業の経済性と安全性の観点から、2回目の間伐も列状間伐に優位性があることへの理解を深め、取り入れてもらう。
- 全市町村で2回目間伐での列状間伐を導入し、3年後には民有林（道有林を除く）間伐面積の2～3割程度を目指す。

## 【今後の取り組みで目指すところ】

民有林（道有林を除く）でも高性能林業機械と路網を組み合わせた効率的な作業システムに関心を持ってもらい、実践に繋げてもらうことを目指します。

森林所有者や森林組合が列状間伐のメリットを理解し、不安等が払拭され、来年度には当署管内の8市町村の全てで2回目間伐も列状間伐が導入されることを目指します。

市町村の林務担当者との顔の見える関係を構築し、国有林に対して気軽に相談を受け、的確に支援できるよう取り組みます。また、支援を通じて林務担当者の森林・林業の知識が深まり林務行政に自信が持てるようにします。



現地検討会と意見交換



コンテナ苗の植栽現地検討会



森林施業の現地検討会